

日本海でクロマグロ仔魚しぎよの 大量採集に成功

北太平洋の太平洋クロマグロ（以下、クロマグロ）の資源状態は、現在、歴史的最低水準に近いと推定されています。クロマグロ資源の増減には毎年の加入量*が大きき影響すると考えられ、加入量の把握の強化が必要です。

日本海は、南西諸島海域と並ぶクロマグロの主要な産卵海域です。水産研究・教育機構は2011年から産卵場を時空間的に把握するため、また、今年度からは加入にかかわる仔魚しぎよの生き残りのメカニズムを解明するため、日本海で生まれた仔魚の調査を行っています。今年7月24日から8月5日までの調査のうち、7月31日に兵庫県但馬沖の調査で、1回の曳網ひきあみでクロマグロ仔

魚約3千300尾の採集に成功しました。これは、過去の最多記録（1984年の85尾）を大幅に更新するものです。

採集されたクロマグロ仔魚は体長が約3ミリで、ふ化後数日と考えられ、DNA分析で、すべてクロマグロ仔魚と判断されました。今回の大量採集の要因は、これまでの経験から例年よりも調査時期を遅らせたことや、実際に日本海での産卵が例年よりも多かった可能性などが考えられますが、詳細は不明です。

今後、得られた仔魚の大きさや栄養状態の解析を行うことで、加入量の推定や、産卵場および産卵環境の詳細な解明など、日本海におけるクロマグロの加入に関する



写真 日本海で採集されたクロマグロ仔魚

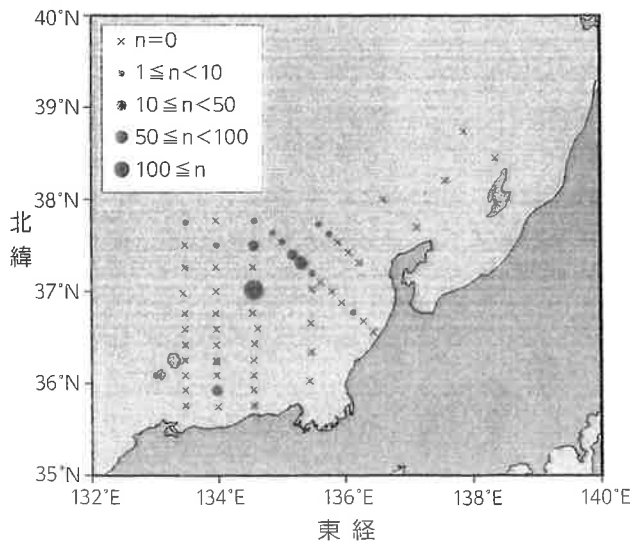


図 調査海域

研究の進展が期待されます。また、今年度の加入との関係についても解析を進めていきます。

*加入量：生まれた魚が成長して生き残り、新たに漁業の対象となることを加入といい、加入量とはその量で、尾数で表します